

令和2年度 学校評価 目標・改善策 《資料I》

| 評価項目 | No. | R2目標 | R2改善策 | 担当 | R2 | R元 |
|-----------|-----|--|---|--|-----|-----|
| 教育課程・学習指導 | 1 | <p>(個)</p> <p>◎新学習指導要領の完全実施に向けて、授業の在り方について教科研究を進めるとともに、新しい観点別評価について計画的に検討する。</p> <p>○基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を充実させる。</p> | <p>【授業改善・指導改善】</p> <p>□校内授業研(教科指導)を年1回位置づけ、授業改善や指導の充実を図る。</p> <p>■講師を招聘し、学習会を行い、喫緊の課題に対する理解を深める。</p> <p>【教育課程・カリキュラム】</p> <p>■年間指導計画の実践を通して、成果と課題を明らかにし、HPなどで公開し、地域への貢献を図る。</p> <p>【研究との関わり】</p> <p>■教科研究、とくに3観点での評価(特に、「主体的に学習に取り組む態度」)について研究を進め、授業改善に努める。</p> <p>■SELFの授業改善を図り、HPや日本生活科・総合的学習学会山梨大会などで、成果を公開する。</p> | ◎進藤 ○森澤 ○佐藤 ○萩原 ○松岡 (校長) 副校長 梶原 | 3.2 | 3.4 |
| | 2 | <p>(全)</p> <p>◎年間指導計画の見直しを随時行い、計画的に取り組めるようにする。</p> <p>○道徳の評価の検討を推進する。</p> <p>○教育実習生の道徳実践を推進する。</p> | <p>【年間指導計画】</p> <p>■年間指導計画を基に、すべての内容項目が網羅できるよう計画的に取り組んでいく。</p> <p>■HUMANを1年生は夏休みまでに、2,3年生は年内を目標に実施し、実態を把握するとともに年間指導計画の見直しに活用する。</p> <p>【道徳の評価】</p> <p>■他校の実践を参考にしながら、夏休み中と冬休み後に道徳部会が評価の方法や文例を提案する。</p> <p>【教育実習】</p> <p>■道徳主任が、実習生指導資料を作成し、指導案の形式の統一と授業実践の方向性を提案する。</p> | ◎松岡 ○松本 ○宮崎 ○小松 (田形) (梶原) | 3.7 | 3.6 |
| | 3 | <p>(全)</p> <p>◎SELFのグランドデザインに沿った授業の実践と改善を目指す。</p> <p>○全国大会に向けて、全職員が共通理解をもって実践にあたることができるように情報交換を密にする。</p> <p>○附属小や甲府一高との連携をはかり、つながりを意識した授業内容にしていく。</p> <p>○他教科との関連を意識し、SELFで身に付けさせたい資質・能力を明確にする。</p> | <p>【SELFのねらいの明確化と教科横断的な学習に向けて】</p> <p>■各教科の年間指導計画におけるSELFの資質・能力との関連をどのように図っていくのかを校内研などを通して明確にする。</p> <p>■附属小や甲府一高の担当者と定期的に情報交換を行い、各学校の実践や指導計画を全職員が共通認識できるように校内研などで情報を伝える。</p> <p>【SELFにおける授業の系統性】</p> <p>■SELF部会を定期的に行い、各学年の進捗状況を確認するとともに成果や課題について意見を交換し合い、よりよい指導計画を作成する。</p> <p>■司書教諭との連携を通して、各学年で授業計画の確認・修正などを適宜行っていく。</p> <p>■様々な外部機関とも連携を取りながら、資質・能力の育成につながる授業を計画していく。</p> <p>【SELFの評価】</p> <p>■生徒の授業後の振り返りや成果物を分析し、効果的な指導がなされているかどうかを検証する。</p> <p>■個々の生徒にあった評価を行い、保護者にも指導内容が理解しやすいように工夫した文言を通信票に記述する。</p> <p>【生徒の支援体制】</p> <p>■各学年のSELF担当を中心に、TTによる指導を行い、支援が必要な生徒へはより細かい対応をしていく。</p> | ◎奥田 ○竹野 ○進藤 ○森澤 ○古屋 ○梶原 | 3.6 | 3.6 |
| キャリア教育 | 4 | <p>(全)</p> <p>◎「やまなしキャリア・パスポート」についての共通理解を図る。</p> <p>○全体構想図の修正や各学年の年間指導計画を作成する。</p> <p>○本校のキャリア教育や指導法について共通理解を図る。</p> | <p>【やまなしキャリア・パスポート】</p> <p>■キャリア・パスポートの効果的な活用方法について、先行事例をもとに研究を進める。</p> <p>【組織的・系統的なキャリア教育】</p> <p>□「キャリア教育の手引き」に記載されている年間指導計画を確実に実施し、キャリア教育講演会や若桐講座の実施を継続していく。</p> <p>□本校ならではのキャリア教育と連動した職場体験活動について、実施時期や内容の検討を引き続き行う。</p> <p>【情報共有と周知の徹底】</p> <p>■学年便り・学級便り等を通じて、保護者に対してキャリア教育を実施していることを周知する。</p> | ◎那須 ○深沢 ○長沼 副校長 梶原 | 3.1 | 3.4 |
| 生徒指導 | 5 | <p>(全)</p> <p>◎QU、いじめアンケートを定期的に行い、結果を分析し、活用するとともに、全職員で情報を共有しながら、指導を適切に行う。</p> <p>○内規の見直しを進め、基本的な生活習慣の確立に努める。</p> <p>○公共交通機関のマナー、登下校のマナーなどを徹底し、地域に愛される附中生を目指す。</p> | <p>【QU調査・いじめアンケート】</p> <p>■QUは6月・11月、いじめアンケートは7月・11月・2月に実施し、調査結果をもとに速やかに対応する。</p> <p>■当月の職員会議をいじめ対策委員会と位置づけ、結果等を全職員で共有するとともに、早期対応に努める。</p> <p>【基本的な生活習慣の確立】</p> <p>■生徒手帳や内規を見直すとともに、きまりについて定期的に確認する機会を設ける。</p> <p>【マナーの徹底】</p> <p>■毎月1回は、学年やクラスでマナーに関する指導を行い、生徒の意識の改善に努める。</p> <p>□電車通学者・バス通学者・自転車通学者・徒歩通学者それぞれ個別に集めて指導する機会を前期後期に一回ずつ確保する。</p> <p>【情報共有】</p> <p>■いじめやトラブルなどの生徒指導事案について、校内生徒指導部会を活用し、全職員での共有を図り、全校的な協力体制の構築に努める。</p> | ◎関原 ○小野 ○竹野 副校長 中田 梶原 | 3.5 | 3.7 |
| 安全管理 | 6 | <p>(個)</p> <p>◎年間の訓練計画を作成し、3年計画により着実に実行する。</p> <p>○地震、火災、不審者対応など実際に起こりうる場面を想定した計画づくりを行う。</p> <p>○安全点検日を指定月に設け、確実に点検が行える体制を整える。</p> | <p>【安全計画】</p> <p>■年度の切替前に、主担当は管理職とともに危機管理マニュアルおよび防災安全計画の見直しを行い、職員の対応や役割分担を確認する。</p> <p>【危機管理】</p> <p>■年度当初の計画に基づき、全職員で分担して定期的に校内施設設備の安全点検を行い副担当がまとめる。主担当は修繕が必要な箇所を管理職・大学事務職員に報告・連絡し、修繕を依頼する。</p> <p>■年度当初に主担当は、防犯対策として玄関等の防犯意識を職員に促す。また、定期的にその状況を点検する。</p> <p>【避難訓練】</p> <p>■年度当初に、主担当は実施可能な想定を取り入れた避難訓練の計画を作成し、担当者全員と協議して訓練内容を決定する。</p> <p>■年1回は、事前・事後指導を組み入れた予告なしの避難訓練を実施する。</p> | ◎野沢克 ○若尾 ○奥田 副校長 梶原 | 3.5 | 3.5 |

| 評価項目 | No. | R2目標 | R2改善策 | 担当 | R2 | R元 |
|--------|-----|--|---|---|-----|-----|
| 安全管理 | 7 | <p>(個)</p> <p>◎生徒の交通ルールやマナーに対する規範意識を高める。 ○日常的な取り組みの結果を保護者に連絡したり、集会や学活等で生徒にも伝えたりし、意識の改善を目指す。 ○交通委員会の生徒主体の活動で、課題を解決し、ことを目指す。</p> | <p>【登下校に関わる取り組み】</p> <p>■生徒指導主事と交通安全主任が連携し、自転車通学路の指定区間や公共交通機関の見回りを検討し、下校の様子を把握に務める。 ■日常的な下校指導に加えて、地域への巡回を定期的に輪番で行う。</p> <p>【情報発信】</p> <p>□新年度始まってすぐに、交通安全主任・交通安全担当による交通安全集会を実施する。 ■年間通じて定期的に、学校だよりや学年・学級だより、PTA等の活動を通じて、保護者へ交通安全に関わる啓発活動を推進する。</p> <p>【交通委員会の取り組み】</p> <p>■委員会活動で、交通安全に関わる全校体勢の取り組みを実施する。</p> | ◎小松 関原 佐藤 中田 梶原 | 3.3 | 3.5 |
| 特別支援教育 | 8 | <p>(全)</p> <p>◎専門の先生による講義を通し、特別支援教育に関する知識を得る機会を設ける。 ○ケース会議を行い、全校体制での指導を目指す。</p> | <p>【支援体制の徹底】</p> <p>□専門的な知識のある先生による講義を、夏季校内研と後期校内研(2月頃)を目安に実施する。 ■年度初めの職員会議での生徒の情報交換の場で、前年度ケース会議で取り上げた生徒について情報を共有し、経年観察する。</p> <p>【ケース会議】</p> <p>■ケース会議に専門の先生に入っただき、適切な指導法について情報交換を行う場を設ける。 ■状況に応じて、臨時のケース会議を行い、スクールカウンセラーや外部機関を交えて支援・指導体制を協議する。</p> | ◎宮崎 早川 松岡 中田 梶原 | 3.5 | 3.5 |
| 教育相談 | 9 | <p>(全)</p> <p>◎学校内の様々な担当と連絡を取って、情報の共有化を図り、校内が連携した取組を目指す。 ○教育相談だよりやSCによる講演会を継続し、SCの存在を周知していく。 ○教育相談の充実に努め、教員間の情報共有を密にしたり、SCと教員間のコンサルテーションの場を設定する。</p> | <p>【情報の共有】</p> <p>■職員会議や生徒指導部会の中で、教職員間の情報共有を密にしていく。</p> <p>【SCとの連携】</p> <p>■毎月「教育相談だより」を担当とSCが発行したり、保護者対象の講演会を開催したりするなどSCの存在を周知することを継続する。 ■相談活動がスムーズに行われるようにスクールカウンセラーによる巡回指導、行事への参加、授業参観を継続する。</p> <p>【予算立て】</p> <p>□現在の教育相談体制が継続できるように、相談実績数報告などの資料を整え、大学への予算立て依頼を継続する。</p> | ◎松本 宮崎 松岡 中田 梶原 | 3.7 | 3.8 |
| 組織運営 | 10 | <p>(個)</p> <p>◎全職員で情報を共有化できるように、伝達方法の工夫・改善につとめる。 ○効果的な組織運営につとめ、特定の職員に負担がかからないようにつとめる。 ○行事の精選について、その行事の有効性(生徒に対する教育的効果)と教師の負担(疲労度)などを考慮して、検討する。</p> | <p>【情報の共有】</p> <p>■学校運営や学年運営等で「報告、連絡、相談(ほうれんそう)」を日頃から強く意識し、情報の共有を徹底する。 ■朝の職員打合せを短縮するため、曜日による長短・ホワイトボードの活用を努め、口頭での連絡は必要最小限にする。</p> <p>【効果的な組織運営】</p> <p>■担当者全員が分担して取り組めるように、本校の課題に合わせて細分化し、明確化を図った分掌内容を担当者へ割り振る。 ■時間割に組み込まれている分掌会議(生徒指導・研究推進・道徳・SELF・生徒会)は、主担当が年間計画を立て、原則毎週実施することを徹底する。</p> <p>【行事の精選・縮小・負担軽減】</p> <p>■行事の精選・縮小については、実施時期や内容・取組方法等を含め、軽減できることを段階的(学年・分掌→企画・運営委員会→職員会議)に模索し、次年度年間行事予定の作成時に合わせて検討する。(例:合唱コンクール) ■負担軽減のため、行事終了後に次年度に向けての課題や仕事の分担・流れ・動きの詳細を主担当者がマニュアル化して次年度に引き継ぐ。</p> | ◎梶原 校長 副校長 奥田 野沢 克山 主 | 3.2 | 3.6 |
| 学校評価 | 11 | <p>(全)</p> <p>◎より精度の高い自己評価となるよう、評価の対象の明確化や、評価項目の重点化に努める。 ○学校評価取組計画表作成し、よりよい学校運営をしていくための過程を可視化する。 ○話し合う内容を明確にした分掌会議の開催。</p> | <p>【評価内容の見直し】</p> <p>■評価の際、「自分としてどうであったか」、「学校全体としてどうであったか」という2つの視点から自己評価を行い、評価の精度を更に高める。 ■課題のポイントを明確に絞り、取組の実効性を上げられるように、特に力を入れていきたい目標を「◎」で表記する。</p> <p>【学校評価取組計画表の作成】</p> <p>■前年度中に各評価項目の改善策に設定した取組日程をまとめた学校評価取組計画表を作成し、4月の職員会議や分掌会議で共通理解を図る。 ■学校評価取組計画表を全職員に配付し、職員の意識化を図る。</p> <p>【学校評価の分掌会議の実施】</p> <p>■4月・夏季休業中・11月に実施する分掌会議で①目標や改善策の把握の→②進捗状況の確認→③まとめを行う。</p> | ◎梶原 校長 副校長 | 3.6 | 3.8 |
| 情報提供 | 12 | <p>(全)</p> <p>◎情報発信に関する機能的な組織づくりを進める。 ○学校HPの役割を見直し、公開可能で有益な情報を精選して、効果的に発信する。 ○情報更新の年間計画を作成し、組織的・計画的な更新を心がける。 ○生徒の学習保障のためにオンライン授業の実施に向けての体制作りを進める。</p> | <p>【研究に関わる情報発信】</p> <p>□教科研究データアップロードのためのHP更新ガイダンスを、5月末までに教科主任対象で行う。 □教科ごとにHPを見直し、年間2回は(教科担当紹介、研究会後)更新する。</p> <p>【入試に関わる情報発信】</p> <p>■入試に関わる重要な情報はトップページに「お知らせ」に掲載されているようにする。</p> <p>【学校の様子に関わる情報発信】</p> <p>■教員も生徒も個人情報の保護の観点に立ち、HPの更新作業に努める。 ■新年度になって変える必要のある情報を更新する。</p> <p>【生徒の学習保障に関わる情報発信】</p> <p>■HP上で臨時休業中の課題やオンライン授業の実施に向けての情報を発信し、その体制作りを進める。 ■一人一台端末の実現(GIGAスクール構想)に向けての体制作りを進める。</p> | ◎森澤 ○荻原 ○佐藤 小松 (梶原) | 3.7 | 3.7 |